

創業の地に多目的広場

4月末、地域住民に開放

アイコクアルファ

自動車部品メーカーのアイコクアルファ（本社稲沢市祖父江町森上、樋田克史社長）は、創業の地である森上工場の跡地に多目的広場「いこいの広場」を開設する。4月末に運用を始め、地域住民に開放する。同社の歴史などを紹介するメモリアルホールを開設する。地域とのつながりを一層と深め、将来も持続的に成長するための基盤を築く。

（勝又佑記）



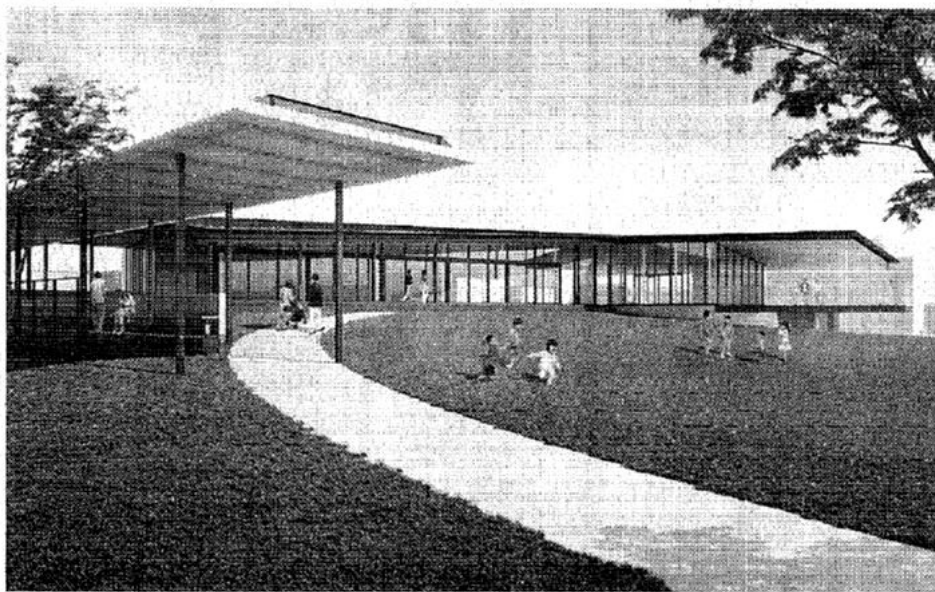
樋田克史社長

「いこいの広場」は、稲沢市祖父江町本甲大溝75に開設する。名鉄森上駅から徒歩数分の立地だ。敷地面積は約6900平方メートル。広場内には、創業家3代目で同社の経営理念などをつくった故樋田成一氏の名を冠したメモリアルホールをつくる。

メモリアルホールは、延べ床面積が約800平方メートル。草創期に活用されたプレス機、同社の経営の考え方や歴史を紹介するパネルを展示する。

また、広場にはホタルを放つ池を設ける。現在は地元「祖父江町のホタルを守る会」や専門家の協力を受け、同社の社員寮でヘイケボタルを人工飼育してい

メモリアルホールも開設



森上工場跡地に開設する「いこいの広場」(イメージ)

る。早ければ今年6月にもホタルを放つ。

森上工場は、1943年に同社が創業した地。2016年1月に操業を停止していた。20年に創業77年を迎えたのを記念して、地域

貢献の一環として「いこいの広場」を設けることにした。

樋田社長は「当社は祖父江で創業し、成長してきた。祖父江の皆さんに当社を知ってもらいながら、還元したい」と話している。